

総論 推進技術の継承

国土館大学における インターンシップの取り組み

ほりちのりゆき
堀地 紀行

国土館大学
理工学部教授



1 はじめに

国土館大学は、7学部、大学院10研究科、学生数約15,000人を擁する中規模大学で、2017年には、創立100周年を迎える。本学における、インターンシップの取り組みについてその概要を紹介する。

2 インターンシップの現状

インターンシップの始動は、4月から開始される。本学の場合、対象となる学生は3年生である。まず、本学が主

催する本学学生向けの企業合同就職説明会（前年含む）に参加された企業に対し、インターンシップでの本学学生の受け入れを打診する。次に、受け入れを承諾された企業と本学とで、インターンシップの受け入れ協定を締結し、学生の受け入れ段階に入る。学生は、大学と企業で実施するインターンシップ説明会に参加し、インターンシップで受け入れてもらいたい企業に対し、申し込みを行う。その後、インターンシップ希望学生に対し、大学と当該企業とで面接を行い、インターンシップへの派遣学生を決定する。

この間、学生はインターンシップ派遣前にマナー研修などを受講する義務が課せられている。また、節度と責任を持ってインターンシップを実施する旨の誓約書に署名することが、学生には求められている。

こうした手順をへて、8月の夏季休業期間に各企業様に派遣され、インターンシップを実施することとなる。現在、インターンシップについて、大学における履修単位としては認められていないものの、近い将来、単位認定される見通しと聞いている。

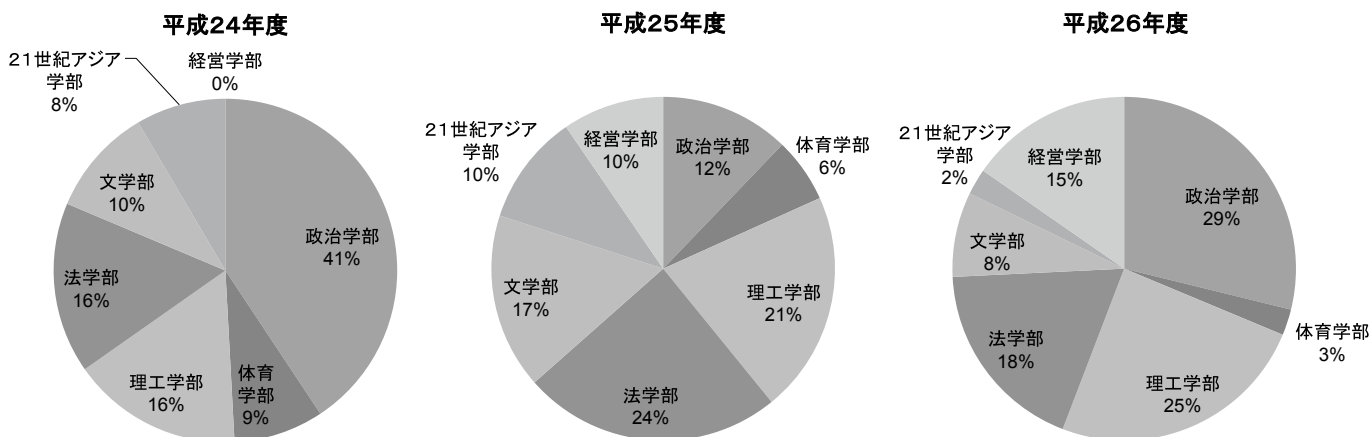


図-1 学部別インターンシップ参加学生割合（国土館大学）

3 インターンシップの課題と展望

本学では、就職、インターンシップは学生のキャリア支援と位置付けられ、キャリア支援センター、キャリア支援課が窓口となって実施していて、教員が学生に直接、インターンシップに関わる支援や説明を行う機会はない。

添付のグラフ資料にもある通り、ここ2、3年で説明会参加学生、受け入れ企業も増加傾向にあり、中でも理工学部学生の参加傾向は増加している。一方で、インターンシップ参加学生はやや伸び悩んでいる。単位認定の外、何かインセンティブが必要かもしれない。しかし、近年ささやかれてきた、就職時における学生と企業のミスマッチの解消の一助として期待できるシステムであることには間違いない。私の研究分野である建設工学と関連の深い建設業界にあっては、近年、人手不足が囁かれ、人材の確保に、日々、頭を悩ませている経営者や技術者の方々が多くおられることは存じ上げている。同じく、添付資料から、ここ3年間では、インターンシップ説明会の参加は、7%から11%、さらに12%と増加傾向にあるが、建設業界を取り巻く実情からすれば、積極的な取り組みが望まれる。

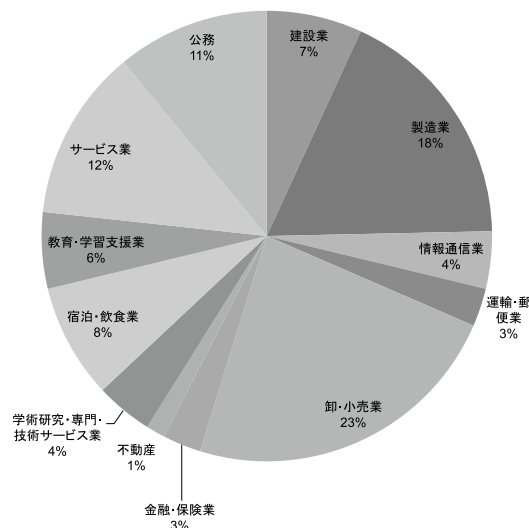
こうした就職説明会の前年度に行われるインターンシップ説明会や、インターンシップの実施受け入れは、業界に対する学生の誤った理解を払拭し、正しい理解に導く格好の機会と捉まえて、企業のさらなる積極的な参加を期待したい。また、学生も社会との接点は、飲食業などを中心としたサービス業の接客などに留まり、会社や役所の実務については未知の領域であり、インターンシップを通じて実務の面白さや難しさなど、社会経験を厚くすることは、社会人として踏み出すにあたり、大変重要である。

4 最後に

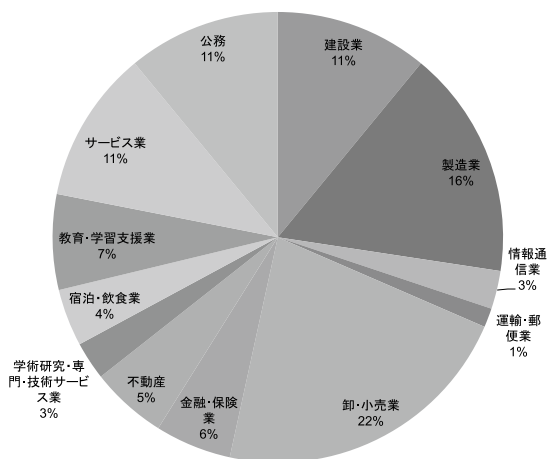
ここで、紹介させて頂いた、インターンシップに関する本学の一連の流れと取り組みは、大学間で多少の相違はあると思われるが、概ね類型の対応が各大学で計られているものと理解している。各企業の積極的・戦略的参画に期待したい。

なお、統計的資料は、本学キャリア支援センターの協力を得て、作成頂いたことを、謝意を持って付記する。

平成24年度インターンシップ
受入企業分類業種



平成25年度インターンシップ
受入企業分類業種



平成26年度インターンシップ
受入企業分類業種

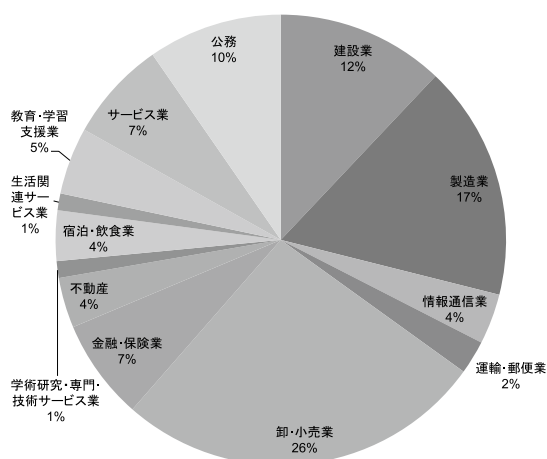


図-2 企業参加構成比 (国士館大学)